

平成 23 年度は、歴代陸海軍大臣の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

のむら なおくに
《 野村 直邦 1885～1973年 》

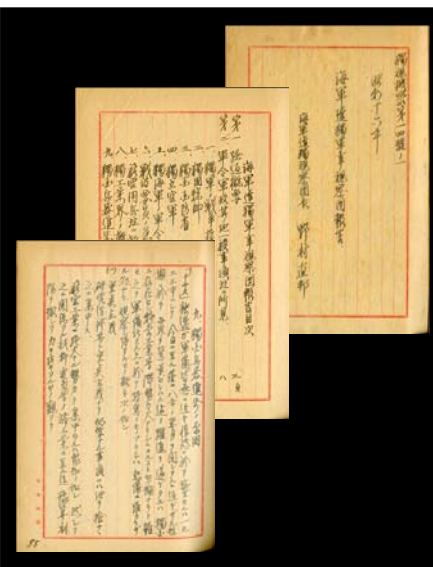
—在独大使館付武官、遣独軍事視察団長として活躍した海相—



第 44 号 昭和 4. 12. 17 独海軍の質問事項に関する件

(登録番号：海軍省一武往文一S-9-65)

野村直邦大將は、明治 41 年 12 月、海軍少尉に任官、その後、第 2 潜水戦隊司令官、呉及び横須賀鎮守府司令長官、海軍大臣、海上護衛司令長官等の要職を歴任しました。この史料は、在独大使館付武官であった同大將（当時大佐）が、海軍省に送った昭和 4 年 12 月 17 日付「独海軍質問事項ニ関スル件照會」です。「日本海軍ハ・・・極メテ普通ノ事迄モ秘密ト称シテ知ラシ呉レズ右ニ反シ見學ニ関シテハ他海軍ヨリ一層多ク申込ム」との意見がドイツ海軍部内にあるとして、海軍省に対し善処を求めています。ドイツ海軍との良好な関係を維持するために腐心する武官の姿を窺い知ることができる史料です。



海軍遣独軍事視察団報告 昭和 16 年 (登録番号：①全般-242)

野村大將は、昭和 16 年 3 月から 6 月の間、海軍遣独軍事視察団長（当時中将）としてドイツを視察しました。この史料は、同大將が作成した「昭和十六年 海軍遣獨軍事視察團報告」です。同報告にはドイツの軍政から工作機械に至るまで多岐にわたる調査内容が記述されています。進歩著しいドイツの兵器についても「獨國兵器進歩ノ原因」として、重点主義、取捨選択、指導者、民業主体などを挙げて報告しています。野村大將はその後もドイツに留まり、昭和 18 年 7 月にドイツ海軍の潜水艦 U511 号に乗艦して帰国しました。帰国後は、昭和 19 年 7 月 17 日に東條内閣の海軍大臣となりましたが、同月 22 日の内閣総辞職により、わずか 5 日間でその職を辞することになりました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

- ※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）
外線：03-3713-5912
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
- ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>